

中央情報専門学校

学校関係者評価報告書 (平成28年度)

注記

本報告書は「学校自己評価報告書（平成28年度）」を元に、学校関係者評価委員会（平成29年8月23日（水）開催）での評価等を整理・追記して纏めたものである。

平成25年3月文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」

評価項目一覧

1. 学校の教育目標

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

- 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
(専門分野の特性が明確になっているか)
- 学校における職業教育の特色は何か
- 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
- 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知がされているか
- 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

(2) 学校運営

- 目的等に沿った運営方針が策定されているか
- 運営方針に沿った事業計画が策定されているか
- 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- 人事、給与に関する規程等は整備されているか
- 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか
- 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3) 教育活動

- 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか
- 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
- 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

- キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
- 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか
- 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか
- 授業評価の実施・評価体制はあるか
- 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
- 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
- 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
- 関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか
- 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか
- 職員の能力開発のための研修等が行われているか

(4) 学修成果

- 就職率の向上が図られているか
- 資格取得率の向上が図られているか
- 退学率の低減が図られているか
- 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援

- 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
- 学生相談に関する体制は整備されているか
- 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- 課外活動に対する支援体制は整備されているか
- 学生の生活環境への支援は行われているか
- 保護者と適切に連携しているか
- 卒業生への支援体制はあるか
- 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6) 教育環境

- 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 防災に対する体制は整備されているか

(7) 学生の受入れ募集

- 学生募集活動は、適正に行われているか
- 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 学納金は妥当なものとなっているか

(8) 財務

- 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 財務について会計監査が適正に行われているか
- 財務情報公開の体制整備はできているか

(9) 法令等の遵守

- 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
- 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
- 自己評価結果を公開しているか

(10) 社会貢献・地域貢献

- 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
- 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか

(11) 国際交流

- 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行われているか
- 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか
- 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか
- 学修成果が国内外で評価される取組を行っているか

平成29年度 中央情報専門学校 学校関係者評価委員 名簿（敬称略・順不同）

氏名	所属
委員：倉橋 政道	公益財団法人日本教育公務員弘済会 埼玉支部 顧問 埼玉県立浦和高等学校 元校長
委員：岩寄 正	公益社団法人埼玉県情報サービス産業協会 相談役 ティーエスサービス株式会社 代表取締役社長
委員：西村 俊郎	オフィス・プレクサス 代表 NECビッググローブ株式会社嘱託 元執行役員常務
委員：増古 恒夫	増古技術士事務所 所長 公益社団法人日本技術士会 埼玉県支部長 パシフィックシステム株式会社相談役 元代表取締役社長 公益社団法人埼玉県情報サービス産業協会 元副会長

平成29年度 中央情報専門学校 学校評価事務局（学校評価委員会）名簿

氏名	所属
委員長：岡本比呂志	学校法人中央情報学園 理事長 中央情報専門学校 校長
委員：堀切 達也	学校法人中央情報学園 学園参与
委員：松本 彰仁	学校法人中央情報学園 事務部長
委員：岩田 俊裕	中央情報専門学校 副校長
委員：小菅 厚	学校法人中央情報学園 主査
委員：斉藤 由美子	中央情報専門学校 学科長
事務局：富樫 素子	中央情報専門学校 主事

「専修学校における学校評価ガイドライン」(文部科学省平成25年3月)に基づき、平成28年度の活動について、平成29年6月に以下のとおり、学校自己評価を実施した。

1. 学校の教育目標

〈教育理念〉

21世紀の日本と世界で新しいビジネスに挑む、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成する

〈校訓〉

「自主・創造・誠実 ～学び続ける者だけが成功する～」

「自主」とは「自分の頭でものを考え、自らの行動に責任をもつ」こと

「創造」とは「自らの希望と夢を追求し、創造的に生きる」こと

「誠実」とは「人との約束を守り、誠実に生きる」こと

〈教育方針〉

「一人ひとりを大切にし、各人の能力と個性を最大限に伸ばし開花させることを教育の基本とする

授業は“親切・丁寧・わかりやすく”をモットーとする」

〈教育目標〉

1. 産業界が求める専門知識、専門スキルの修得
2. デザインを形にできる能力の育成
3. コミュニケーション能力の育成と人間的成長
4. 希望者全員の就職

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

本年度においても、学生の成長（教育の成果）、教職員の成長、学園の成長という「3つの成長」を持続的に達成していくことを基本とし、社会の要請や時代の変化への対応を図りながら、さらなる教育の質の向上を重点目標とした

（1）社会の要請や時代の変化への対応

<IT分野>

近年の技術革新や既存要素技術の適切な組み合わせにより、人工知能分野・IoT・スマートフォンアプリケーション等の分野において目覚ましい技術革新が展開している。当校では、スマートフォンアプリケーション開発用言語に、いち早く C#を用いた開発を実習授業に取り入れていたが、平成28年に Microsoft 社が、Xamarin 社を買収し、Visual Studio for Mac の無償提供を開始した。これによりスマートフォンアプリケーションの開発言語の主流は C#へと向かっており、当校の先駆けとなる取り組みは実りつつあると考えている。

また、人工知能分野においては、教員による C#・Java・Python を用いた機械学習の研究が行われており、その成果は学習会等の自由な学習時間において興味を持つ学生に展開してゆく予定である。

<ビジネス分野>

平成32年東京オリンピック開催に伴い、さまざまな分野で新ビジネスが展開されている。訪日観光の需要が増加することから、日本の伝統和文化はますます注目されている。当学科では早くから伝統和文化マナーを授業に取り入れ、日本で質の高いサービスを提供するため「おもてなしの心」を学び、あらゆるビジネスに対応できる力を付けるとともに、外国人実習生が増加しつつある日本企業でのヒューマンリソースマネジメントに着目している。

（2）教育環境の整備とシラバスの改訂・分かりやすい授業の展開

「シラバスの改訂」

<IT分野>

当校は職業実践専門課程認可の学科を設置しており、カリキュラム及びシラバスについて教育課程編成委員会の委員からのご意見を参考にしながら毎年カリキュラムの見直しを実施している。

本年度は、常に発展する IT 業界のニーズに対応できる基礎力を早期に育成する目的の下に、新入学生に対するオリエンテーションの一環として、「C 言語プログラミング集中講座」を約一か月間実施した。この集中講座の実施により、後に配置された各プログラミング科目は、言語の特徴的な部分から授業を始めることが可能となり、より早い時期における応用プログラミング教育開始を実現している。

<ビジネス分野>

時代の背景に応じたビジネスを展開している産学連携の企業や団体、協会の方々による実践的な要素を取り入れた授業をおこなっている。また常に最新技術を取り入れている日本の工場見学

等の校外学習や調理実習をおこない五感に触れる教育を取り入れている。

「分りやすい授業の展開」

当校の特徴の一つである「学習会」制度を活用し、授業において理解が難しかった点などを有する学生を集めて、再度同一内容の授業を行うなど多くの学生の学習理解度を向上させる工夫を行っている。また個別の授業について、毎月教員相互に授業観察を行っており、自身の授業において参考となる授業や、反省すべき点などを教員自らが分析・検討を行う機会としている。この授業観察結果は、授業毎に定量的に測定され定期的に実施される教員研修会において発表されている。

(3) 学生指導の充実

当校は外国人留学生がその構成において中心であるため、日本における生活と国内法について、各クラス担任により解説を適宜行っている。また各学期の開始日に実施される全校集会においては、当校所在地所轄の新座警察署のご協力を得て、警察官による交通法規の説明及び犯罪防止のための啓蒙を行っている。

また出席率を向上することにより、シラバスが完全に実施し得る前提が整うとの考えに基づいて、一時間目に遅刻欠席している学生に対する個別指導を徹底している。出席率もさることながら、日本で就労機会を求める学生にとって必要な礼儀・作法についても教育を行うと共に、各クラス担任から、日本で働く意味や仕事に対する基本的姿勢などについても指導を行っている。

(4) 進路指導

当校は、主として卒業後に就労を目指す学生が多いことから、就職指導が重点となっている。平成28年度の就職希望者はほぼ100%就職するという、高い実績を残している。この実績は、1年次後期に実施される「就職特別講座」において有名企業の社長・役員クラスに講話をお願いし、就職に対する意識を高めながら、2年次4月からの毎週開催される「校内企業説明会及び面接会」において多くの就労機会を提供していることによると考えている。

(5) 学生募集

学生は、質の高い教育の対象であるとともに素材でもある。当校は、学生募集において体験授業による各学科における学生の適性及び資質を重視して、受験を許可するという独自の入試システムを導入している。その結果、学士保有者が全学生のうち5割を超え、優秀な入学生確保を実現している。

留学生中心である当校の主要な募集ターゲットとなるのは、日本語学校である。日本語学校で学ぶ留学生を対象とする公開の進学セミナーなどに広く参加すると共に、日本語学校校内での当校独自の進学説明会を開催し成功を収めるなど、活発に活動しかつ、多数の優秀な学生確保の実績を挙げている。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
b	学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか	4
c	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
d	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
e	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

②現状

- a. 「21世紀の日本と世界で、新しいビジネスに挑む、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成する」という教育理念の下、教育目標として以下が定められている。
1. 産業界が求める専門知識、専門スキルの修得
 2. デザインを形にできる能力の育成
 3. コミュニケーション能力の育成と人間的成長
 4. 希望者全員の就職
- b. 学習項目を「専門スキル」「専門知識」「ヒューマンスキル」に分類・設定し、学修したスキル・知識を活用し、クリエイティブなビジネス分野において活躍できる人材育成を目指している。また同時にビジネスにおいて必須事項となる自己表現・プレゼンテーション技法と併せ、社会人としてのマナーや正しい日本語の教育を実施している。
- c. IT分野では進化し続けるIT技術によって、変革してゆく社会を見据え、将来に渡り通用する技術とはなにかについて常に考察を続けカリキュラムを改変している。具体的には、変化の速度が急速であるIT技術において、常に最新の技術を調査し・学び続ける姿勢とその方法を授業内でも取り上げ、現状の学んだ知識を学生自らの努力により自己拡張できる教育を行っている。
- ビジネス分野では常に社会の動向に目を向けて、必要とされる技術や知識を取り入れた授業により、経営者としてこれからのビジネスプランを意識した考えを持つことができる人材育成を行っている。
- d. 学生に学び続けること、進化し続けることの大切さを説き、同時に様々なプログラムコンテスト並びに国家試験へ挑戦することを推奨している。また学生主体のコンテスト参加プロジェクトを教員も参加し開発をリードする試みもなされている。
- e. 教育課程編成委員会において、業界委員の方々から貴重なご意見を頂戴し、動的にカリキュラムに変更を加えながら、貴重なご意見を実際の教育現場へと反映している。

③課題と改善策

- ・教育理念に基づき、優秀な学生を募集し産業界のニーズに基づく教育を実施しているが、同時に優秀な学生に相応しい高いレベルの教育の実施が望まれる。受け入れ側の教員のレベルを適正に評価し、継続的に向上させてゆく努力が必要である。
- ・対策として、IT 分野では IT 系教員の量的増加と共に、現行教員の国家試験などへの挑戦を義務付け、一定基準の国家資格を有しない教員については、一定の人事上の評価を行うなど、強制力とともにモチベーション向上を喚起する質的向上の方策が必要である。
- ・ビジネス分野では多数の企業との産学連携が行われ、学生の興味を喚起する魅力的な校外学習なども行われている。一方、ビジネス分野に対する幅広い知見を有する教員を育成していくための研修等の機会が不足していると考えられ、今後専門分野の広い知識を身に付け、ビジネス分野における実践的な教育に臨む必要があると考える。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・ 教員に関する記述がいろいろなところで出ている。例えば、7 頁の「わかりやすい授業の展開」、9 頁の課題で「受入側の教員のレベルを適正に評価」、「国家試験を受けさせモチベーションを向上する」、「ビジネス分野における研修機会の不足している」や 12 頁の評価項目 m、n の部分などに書かれているので、教員に関する課題は整理した方がよい。

(2) 学校運営

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
b	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
c	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
d	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
e	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
f	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
g	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
h	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

②現状

- 学校の教育理念、人事全般、授業内容、学生指導等については明文化されており、管理職による定期的な部門長会議において、目的、目標に沿った校務運営を進めている。
- 事業計画については、運営方針に基づき、毎年関係部門にて作成されており、その進捗状況は月次報告として理事長・校長に毎月提出されている。

- c. 理事会・評議員会での意思決定事項は寄附行為において定めており、主要項目については理事会・評議員会にて決定している。日常の業務運営については理事長・校長の下、副校長、学科長、各部門の主事・主任を配置し、適切な意思決定、組織運営を行っている。
- d. 人事考課制度、給与制度、就業規則等の規定は整備されている。
- e. 年度当初における校務分担の中で教務担当、財務担当等を配置し、上司への報告・連絡・相談、並びに稟議等により円滑かつ適切な意思決定が行われている。
- f. 関係法令の遵守のみならず、社会規範の遵守についても、教職員に適時適切に指示・訓示を図っていると同時に、学生に対しても全校集会・ホームルーム等を通じて、きめ細かく指導を行っている。
- g. 本校の概要や教育活動等を広く理解していただくために「学校基本情報」や「学校関係者評価報告書」等の情報を学校ホームページにて公表している。また、各種イベントや学校情報などは個人情報保護に配慮の上、学校ホームページに掲載している。学校運営については、学園理事会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会などにおいて、関係者に報告、説明が行われている。
- h. 学籍管理、出席管理、成績管理についてコンピュータシステム化が行われている。当該システムは、学生の出席及び成績管理の実施並びに経費精算等の業務の効率化を図っている。現行システムは導入後一定の時間が経過し、校務・教務の現場の実態に即しきれていない問題点も生じている。今後、満足度が高くかつ継続的に運用可能なシステムの検討と導入が必要である。

③課題と改善策

- ・カリキュラム構成の変化など校務・教務環境の変化などにより、新たな設計思想に基づく新システムの開発もしくはパッケージソフトウェア導入が検討されている。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・工場見学や校外学習に関しては良いことを実施しているので、評価項目がないのはもったいない。

(3) 教育活動

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか	4
b	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
c	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4

d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
e	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
f	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
g	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
h	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
i	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
j	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
k	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
l	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
m	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
n	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

②現状

- a. 一人ひとりを大切にし、各人の能力と個性を最大限に伸ばし開花させることを常に念頭に置き、教育課程の編成及び実施方策などを策定している。
- b. カリキュラムは、業界ニーズを踏まえた目指すべき人材育成像に従って、規定の修業年限に対応した学習時間と共に作成されている。また各修業年限における到達レベルの把握を目的として「総合力テスト」を実施している。
- c. カリキュラムは、卒業時に習得すべき「専門知識」・「専門スキル」・「ヒューマンスキル」を基礎から応用まで段階的かつ体系的に構成されている。
- d. 業界ニーズを常に意識し、カリキュラムや教育方法の工夫が毎年行われている。特に、ビジネスデザイン学科においては、就職を見据えた和食関係企業や関係協会及び団体と連携を深め、実践的な演習や工場見学などを試行し、カリキュラム開発に取り組んだ。
- e. 教育課程編成委員会に関連分野の企業・団体からの委員を迎え、カリキュラムの評価・見直しを行い、改善する作業が定期的に行われている。
- f. 職業教育は、業界が必要とするスキルに対して、「専門知識」・「専門スキル」・「ヒューマンスキル」の各分野に分類され、体系的に位置づけられている。
- g. 毎月すべての教員が相互の授業観察を行い授業評価を実施している。この結果は授業改善のために教員間において公開し情報を共有している。また、日々の授業の評価と改善に資するために、学生による授業アンケートを年3回実施している。結果を各教員にフィードバックし、教員自身の評価や気づき・振り返りに役立てた。
- h. 教育課程編成委員会において各委員の率直かつ忌憚ないご指摘を常に受けつつ改良を行っている。

- i. 成績判定会議、進級判定会議、卒業判定会議などの会議が定例的に行われ評価基準も明確である。
- j. 各資格取得に関して、カリキュラム上明確な科目を設定し授業を行っている。また、通常科目に組み込むことが時間割的に困難である科目については、特別授業を通常時間割とは別に適宜実施している。
- k. 本校が目指す実践的職業人育成のためには、実践的技術指導が可能な実務経験豊富な教員の確保は重要である。すでに外部からの実務経験豊富な教員の招聘並びに、産学連携先企業からの講師派遣により、充実した実習授業を行える教員の量的確保を目指している。また同時に在職中の専任教員における資格取得への努力が求められ、質的にも向上する必要がある。
- l. 産業界から教員を招聘し、言語教育及び開発指導を行っている。実務経験豊富な企業の技術者による授業は、学生にも好評であり実践的職業教育において今後の成果をさらに期待するところである。
- m. 各教員に必要と思われる研修などについては、積極的に参加している。また各種展示会など業界の最新動向を把握するため関連科目の教員を派遣し情報収集を行っている。さらに教員指導力の向上のため、各種団体主催の教員研修会に積極的に参加している。特にインストラクショナル・デザイン及びアクティブラーニングは、各教員の必須知識及び技能と位置付けており、すべての教員が受講している。さらに教員経験並びに研修履歴に応じて、さらに上級コースの受講を継続して行っている。
- n. 職業教育・キャリア教育財団主催の研修会や全専各、埼専各等の会合に参加させ、新しい知識・技術、業界の動向等を学習している。また参加していない教員に対して、各種研修会参加者が研修の内容を伝達し情報共有するため、研修報告発表を定期実施している。また授業改善のための創意工夫を発表する研修会を夏季休業、冬季休業、学年末休業を利用し校内研修会を年3回実施している。

③課題と改善策

- ・職業人として、業界が望む人材像を正確かつタイムリーに把握し、知識・技術・ヒューマンスキルの各分野における学生の到達すべきレベルを明確にすることが重要であると考えている。そのため、各分野における項目別の学習項目を設定するとともに、目標に向けたカリキュラムの作成を行いさらなる改善を図ることを続けたい。
- ・到達目標に向けて、どのような進捗において学生が成長したのかを定量的に把握し、カリキュラムの実効性及び適合性を評価することが必要である。そのため、産学連携先企業を中心としたアドバイスに基づき「業界の求める人材像」を明確にし、求める人材像として習得すべき項目を整理した。これらの整理事項に基づき学修成果を段階的に測定する「総合力テスト」を作成した。総合力テストは、各学年前期・後期及び年度末に実施している。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・ 昨年から実施された総合力テストは、産業界基準で学力測定しようとする当校独自の試みで評価できる。さらにそのデータを積み上げていき、学力測定できるよう期待する。
- ・ i の成績評価等は明確になっているのは良いが、評価した結果、成績の悪い学生を臨時の学習会でフォローして救済するなど PDCA で回しているの、その部分も評価したい。

(4) 学修成果

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	就職率の向上が図られているか	4
b	資格取得率の向上が図られているか	3
c	退学率の低減が図られているか	4
d	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
e	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

②現状

- 就職担当のベテラン教員を配置し、企業へのアプローチを強めている。その成果として校内企業説明会の実施のみならず、入学から就職までの一貫したアプローチを視野に入れた新たな形態の企業連携が生まれている。結果として、ほぼ100%という高い就職率を実現している。
- 情報系資格のITパスポート試験においては、通常授業における座学講座を設置している。また、基本情報技術者試験を目指す学生に向けて試験直前の夏季休暇及び春季休暇中に特別授業を実施している。
ビジネス系資格のサービス接遇・秘書検定・ビジネス実務マナー検定・Microsoft Office Specialist などについて、積極的に資格取得を希望する学生に対して特別授業の形式で指導を行っている。
- 平成28年度における退学者は、各種対策が功を奏し減少している。しかしながら今後、大卒入学者の増加に伴って、修業年限内に就職を決定し退学を希望する学生も増えるものと見られる。この点は今後の課題として受け止めており、魅力ある学校を創ってゆくと共に、入学選考時における選考内容にも配慮し本校で学び就職してゆく強い意思をもつ学生を選抜する必要があると考えている。
- 卒業後も母校として訪ねてくる学生や、さまざまな相談に訪れる卒業生が少なくない。またこれらの学生には、大学に進学した学生も含まれている。卒業後も親身に学生と連絡をとり学生にアドバイスを与え続ける学校であることが広く在学生及び卒業生に認識されている。これは担任制による在学中の親身な学生指導と共に、各担当者による卒業生に関する

る追跡調査が綿密に行われていることが大きい。

- e. 卒業後の学生との太いパイプにより、事後に改善すべき点に気付かされることも多い。就職した学生たちの評判などを企業から直接収集し改善すべき事項は直ちに検討し、日々の授業及びクラス運営に反映されている。当校学生は、就職先から高い評価を受け、後輩たちの就職実績向上にも寄与しているが、ごく一部の学生において日本での就労に関する意識が低い学生もおり、無断欠勤や早期の退職・転職などが若干生じている。そのため今後、キャリア教育科目の中でいくつかの事例を取り上げ、労働の意味や意識についての教育を行うことを考えている。

③課題と改善策

- ・実習講師派遣の増加など産業界との連携を強化し、魅力ある授業の実現と求められる人材育成に向けたカリキュラム開発及び運用を行っているところであるが、今後さらに積極的に連携先企業からの意見を取り入れ、確かな学修成果の実現に努力することが必要となる。また就職先の多様化するニーズに対応する目的での、個別技術の学習会などを開催し、学生の興味と企業におけるニーズに応じて行く必要がある。さらに卒業生が、就職先企業において、どのように評価されているかを測定し、実践的職業教育の実施内容に反映させる目的から、就職先企業の「当校出身者満足度アンケート」の実施が必要であると考えている。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・bの特別授業形式での実施が学生フォローとしてモチベーション向上が保たれるのがよい。
- ・eに関しては原因が二点あるように思う。一点目は何故なのか原因究明する必要があること、二点目は質の高い学生が就職後にギャップが生じているためだと考えられる。企業側の対応もあるので、さらに連携して対応していくこと。一足飛びにいきなり高い仕事が出る訳ないのだから、学内にいる時に現実的なことを教えていく必要があるかもしれない。ギャップを感じる可能性があるため、最初からできるのではなく時間が必要だという事も指導していくのがよい。

(5) 学生支援

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
b	学生相談に関する体制は整備されているか	4
c	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
d	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4

e	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
f	学生の生活環境への支援は行われているか	4
g	保護者と適切に連携しているか	3
h	卒業生への支援体制はあるか	4
i	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
j	高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

②現状

- a. 学生の進路については、副校長・学科長・就職部長・学生指導担当・クラス担任による進路指導会議を定期的開催し、個人別に進路指導方針を協議している。また、「履歴書の書き方」や「面接指導」等、就職の具体的な活動方法はカリキュラム上配置し指導を徹底している。
- b. 学生相談については、学生指導担当を中心に教員同士で連携して取り組んでいる。クラス担任を2名体制とし、各クラスの学生面談を充実させ、個別に状況を把握できるよう学生指導要録に記載している。
- c. 当校の年間学費は他校と比べ適正かつ割安な水準にあり、また、原則2回の分納も認めている。さらに学校独自の奨学金給付制度を設け、学生の経費負担を軽減している。日本学生支援機構の奨学金を学生に周知を図っている。
- d. 定期健康診断を毎年5月に学校行事として確実に実施している。万が一、未受診者がいた場合には指定医療機関にて受診させている。また、再検査が必要な学生には再受診を実施している。
学生指導担当及びクラス担任が連携して健康管理にも対応を行っている。
- e. 彩の国さいたま ICT コンテストの参加への支援をおこなっている。また毎月アンケート調査を実施し、学生の課外活動の把握をおこなっている。特に留学生は資格外活動違反とならないよう担任や学生指導担当による指導を徹底している。
- f. 学生のアルバイト調査、遅刻・不登校の学生への住居訪問の実施等により、学生の生活が乱れ学習に影響が出ないように注意をはらっている。また、休日でも急用等が発生した場合の専用電話を設けて職員が対応できるよう配慮し、留学生が安心して学校生活を送れるようにしている。
- g. 不登校など、問題のある学生の保護者とは、適宜連絡をしている。
- h. 卒業生からの希望に応じ、個別に資格取得のためのフォローや再就職先の支援等、卒業後もフォローや指導を行っている。
- i. 社会人の学び直しの受入れも行っている。
- j. IT・Web 学科において職業実践専門課程の認定を受けたことに伴い、高校との連携を行なう体制の整備を図っている。

③課題と改善策

- ・心身の健康管理については、カウンセリング、キャリアコンサルティング等、対応可能な教員を養成する研修会に参加している。
- ・課外活動として、スポーツ大会の実施や、社会人として相応しい振る舞いを身に付けるためテーブルマナー講習などを実施し、人間関係やコミュニケーションスキルをしっかりと身につけさせるようにする。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・bの担任が2名体制で、それぞれ役割分担して学生指導にあたるのは、学生にとっても先生との相性があるので、相談しやすい状況を作る上でよい。
- ・iの社会人の学び直しについては、来年度から始まる第3期教育振興基本計画に生涯学習が盛り込まれていて、将来ビジネスチャンスになるのではないかと。
- ・文科省でも専門学校の特設課程に応じた講座を作り厚生労働省に認定されると、助成があるので、制度を利用して時間とお金の制限がある社会人向けに検討していくとよい。

(6) 教育環境

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
b	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
c	防災に対する体制は整備されているか	4

②現状

- 現状の学生数に適切な教育及び実習等を実施するための実習室、パソコン、ソフトウェアは十分に確保されている。また設備は、定期的に更新が行われている。
- インターンシップの内、短期間（2～3日程度）のものは、企業からの申し入れあるいは学校による調査に基づき、各々の学生の適性と希望により適宜実施の案内を行っている。また長期におよぶものは、仕事を通じて技術を学べるアルバイトを中心に案内を行っている。また技術実習ができるアルバイトについては、産学連携先企業から紹介も受け、積極的に学生への案内を行っている。
- 教職員による消火訓練の実施、学生の避難訓練等を定期的実施している。また水・食糧等災害時備蓄品の確保を行っている。緊急連絡用 G-Mail の整備を行い、学生との緊急時の連絡も行えるようにしている。

③課題と改善策

- ・学生の質の向上に伴って実習授業の内容の変化が必然的に発生してくると予想している。授業の理解を深める判りやすい教材の提供と身近に学べる環境を提供するタブレット PC の導入と同時に Wi-Fi などのインフラ整備が必要となると考えている。
- ・防災対策は常日頃から意識を高めることと、訓練を行うことが重要であることから、計画的に対策を行っていきたい。また東日本大震災における記録映像などを教材として用いて、地震などの災害に対する知識の学習及び発生時に命を守るために何が必要かを授業の中で学生と共に議論している。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・毎年、実習室の整備、教育環境の整備がされていることは素晴らしい。

(7) 学生の受入れ募集

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学生募集活動は適正に行われているか	4
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
c	学納金は妥当なものとなっているか	4

②現状

- 学生募集活動は、埼玉県学事課の指導及び埼玉県専修学校各種学校協会の申し合わせ事項を守り、個人情報取り扱いや入学願書受付期日等に留意し、適正に実施している。学校案内、募集要項等は、社会ニーズに合わせ毎年改定している。
- 高校や日本語学校あるいは進学説明会等において、学校案内や資料を用い最新の教育内容や教育成果を正確に伝えている。また、ホームページに Facebook をリンクさせ、学校行事、産学連携、就職活動等の動きをきめ細かくアップし、日々の教育活動を志願者、保護者、学校関係者等に発信している。入学説明会では、入学から卒業までの教育内容や成果の説明を行っている。また体験授業を重視した学生募集を行っており、その中で入学後に受講できる実習教育の内容を明確に示している。
- 入学金、授業料、施設設備費等の学納金は、他校と比較して低廉である。

③課題と改善策

- ・日本留学アワード専門学校部門（東日本）を平成28年度及び29年度に連続して受賞している。当該アワードは、日本語学校教員が自らの教え子たちを進学させたい学校を選ぶ賞であり、本校の広報及び募集活動が一定の評価を得ているものと考えている。本校の入試改革による結果として、入学が難しい専門学校という意識が日本語学校において生まれつつある。就職も出来、しっかりと技術を身に付けることができる学校という説明を丁寧

にしてゆく必要があると考えている。体験授業を通じて本校での学習に興味を持つ学生が多く、今後も直接、受験生に訴求する体験授業を中心に、日本語学校における進学説明会などを積極的に行なっていきたい。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・ 学士保有者 5 割ということで、当校の HP に掲載されている玉川大学出身の学生のコメントを見たらこの学校を受けたいと思う。目をひき、勇気づけられてとてもいい。

(8) 財務

①採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
c	財務について会計監査が適正に行われているか	4
d	財務情報公開の体制整備はできているか	4

②現状

- 財務基盤は計画的に強化され、安定したものとなっている。その結果、負債比率、負債償還率は文部科学省の大学設置基準の財務基準をクリアしている。
- 予算、収支計画は無理のない実現可能な計画を策定しており、予算と実績間に大きな乖離は発生していない。
- 会計監査は、実務に精通した前事務局長を監事とし、監査を厳正かつ適正に実施している。
- 常に最新の財務情報をホームページに公開している。

③課題と改善策

- ・ 特になし

④特記事項

- ・ 情報公開については、学校法人単位での公開となっている。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・ 特になし

(9) 法令等の遵守

①採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価

a	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
b	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
c	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
d	自己評価結果を公開しているか	4

②現状

- a. 寄附行為、経営理念、教育理念等において、法令や専修学校設置基準等の遵守を明記しており、教職員研修会等の実施時に徹底を図っている。
- b. 個人情報保護方針にもとづき、各種対策の結果、個人情報漏えい事故は発生していない。また、マイナンバーの取扱いについては極めて厳格な対応を行っている。
- c. 自己評価については、学校長を委員長とする「学校評価委員会」が中心となり、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン（平成25年3月）に準拠し、毎年定期的に実施している。自己評価結果は、関係教職員が問題点の改善に努めている。
- d. 学校自己評価報告書及び学校関係者評価報告書は、学校のホームページに掲載することにより公開している。

③課題と改善策

- ・平成29年5月から個人情報保護法の法改正に伴い、全事業者が対象となった。これに伴い、再度個人情報保護法対策につき、見直しを実施していく。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・bの自己評価3は4でもよいのではないかと。法改正などによる課題を認識しているようなので対応されたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
b	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
c	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3

②現状

- a. 新座市主催の生涯学習パソコン教室等、講師・施設の提供、企業・地方公共団体等と連携し、地域社会と関わりを持っている。
平成28年度は、新座警察署より依頼を受け、交通ボランティアを対象としたイベント「交通安全コンクール」に参加した。学校内での練習や教室内でのリハーサルなどを得て、「第17回

交通安全教育技能コンクール方面大会」のコンクール出場を果たした。

- b. 授業等においてボランティア活動に関する啓蒙活動は行っている。国内外での地震などが発生した場合等、募金活動を自発的に行ったりした。
- c. 新座市主催のパソコン教室等は開講の準備ができています。

③課題と改善策

- ・教育訓練の受託は、現在おこなっていない。情報系学科や日本語本科の授業のない夕方以降に地域公開講座等の開講を検討したい。
- ・交通安全ボランティアのコンクールなど、積極的に学生を参加させるなどしていきたい。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・積極的に学生を参加させる試みは継続してほしい。

(11) 国際交流

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行われているか	4
b	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
c	留学生の学習・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか	4
d	学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

②現状

- a. 留学生の受入れについては、留学生の在籍学校と信頼関係を構築し、日本語能力、基礎学力だけでなく出席率、適性、学費支弁能力等も加味した判定を行い、卒業後の進路を見据えた優秀な学生の募集に努めている。
- b. 受入れにあたり、パスポート、在留カード、卒業証明書、成績表等の出願書類をしっかりと確認するとともに、アルバイト状況、健康状態も把握し、入学後の在籍管理に問題が生じないように対応している。
- c. 留学生の学習・生活指導については、クラス担任と副担任及び学生指導主事が互いに連携し、継続的な面談や日々の声かけ等で留学生とのコミュニケーションに努めている。また、毎週、担任会議において学生動向について幅広い情報の共有化を図っている。
- d. IT・Web 学科留学生の作品が埼玉県ホームページコンテストで入賞した。また、ビジネスデザイン学科の留学生たちが入学式の学修成果の発表と習得した日本の礼儀作法を和服姿で披露し、埼玉新聞に写真付記事で紹介された。

③課題と改善策

- ・学修成果が国内外で評価される取組みについては、学校ホームページを一層活用し、情報発信を強力に行なう必要がある。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・日本留学 AWARDS という日本語学校の先生方が選ぶ留学生を進学させたい専門学校として、今年も東日本部門 5 校として昨年に引き続き、連続受賞した。一人ひとりの適性に応じて入学から卒業・就職まできめ細やかな指導しているのが評価されている。